

福迫陽子・他 著（東京都養育院附属病院）

口蓋裂の言語治療

船山美奈子（国立身体障害者リハビリテーションセンター）

唇・顎・口蓋裂の状態は出生時より哺乳の問題・形態異常が親に与える心理的問題に始まり、さらに、手術の問題、言語障害、歯科的問題・耳鼻咽喉科疾患、容貌に関わる心理的問題等々、その問題は多くの専門領域にわたる。そのため、関連領域の専門家の連繋のもとに長期的見通しをもった対応が必要とされる。専門領域間の連繋が有機的に機能するためには、口蓋裂の問題に関わる領域相互の理解とコミュニケーションが不可欠であろう。本書は、そのチームの一員である言語治療担当者の立場から、口蓋裂言語治療の実践の内容と臨床研究の成果をまとめ、臨床内容の向上と関連領域との連繋のための道標となることを願って書かれたものである。本書の著者らはみな、医療機関の中で、創始者の立場で、口蓋裂の言語治療に取り組み、言語治療の体系と、さらに、関連領域とのよりよい連繋のあり方を独自に築き上げて来た方々である。本書は、その臨床経験と研究実績の集大成である。

本書は、5章から構成されている。第1章では、口蓋裂に関わる基本的事項、すなわち、顔面・口腔の解剖・生理、口蓋裂の発生機序・原

因・口蓋裂に伴って起こることの多い諸問題についてまとめられている。第Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ章には、中心課題である口蓋裂の言語障害について、言語症状、評価と診断の手順と方法、言語治療の原理と方法が詳述されている。言語症状の項には、口蓋裂患者にしばしばみられ、言語治療の対象になることの多い異常構音の動態に関する知見がまとめられている。評価・診断の項には、言語および関連事項の評価手順・方法が呈示されている。さらに、口蓋裂に伴う言語障害と類似の言語症状を呈する他の問題との鑑別診断についても触れられている。言語治療の項では、先ず口蓋裂診療の全体的な流れと、各到達段階に即した治療の内容が概説しており、次に口蓋裂診療に於ける言語治療の位置づけと、到達段階に応じた言語治療の内容が呈示してある。また、言語治療計画の立て方、記録の仕方など、言語治療を実施するに当たって必要な基本的事項についても具体的に述べられている。次いで、口蓋裂言語治療の中心課題である構音訓練の実際についての項では、構音訓練の対象となる異常構音の性質をふまえて、矯正のための訓練プログラム例が列挙されている。

また、口蓋裂に特徴的な構音障害を示した症例の訓練経過報告を通して、個々のプログラムを組み合わせ、総体的な訓練内容を構成する手順が例示されている。第Ⅴ章は著者らが経験した口蓋裂および類似疾患の症例報告である。Ⅳ章までに述べられた口蓋裂に関わる様々な問題が、個々の症例の問題として位置づけられ、治療の対応を含む経過と問題点がまとめられている。終りに、付録として、言語治療担当者から他の関係職種への依頼状および返事の書き方例、訓練用単語リストが掲載されている。

本書を通読して先ず感ずることには、口蓋裂の言語治療に携わる臨床家の先達として、その臨床経験と研究実績を体系づけて伝達することへの著者らの意志と努力である。

また本書は、口蓋裂の言語治療に従事し始めたか、あるいは従事しようとする言語治療士にとっては評価・診断・治療に関する臨床手引き書として、あるいは、既に経験を重ねてきた者にとっては自分の臨床内容を再評価し、新しく方向づけていくための道標として、さらに口蓋裂臨床に携わるチームのメンバーにとっては言語治療への理解を深める情報源として役立つよう構成されている。そして、その意図は十分に達成されているものと考ええる。

（B5，頁274，図150，写真68，1983，¥5,900，㊦300 医学書院刊）